

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-169	A-141	22-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Association of Recent SARS-CoV-2 Infection With New-Onset Alcohol Use Disorder, January 2020 Through January 2022 最近の SARS-CoV-2 感染とアルコール性疾患の新規発症との関連：2020－2022 年			
<b>執筆者</b>			
Olaker VR, Kendall EK, Wang CX, Parran TV, Terebuh P, Kaelber DC, Xu R, Davis PB.			
<b>掲載誌</b>			
JAMA Netw Open. 2023 Feb 1;6(2):e2255496. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2022.55496.			
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>	
COVID-19、アルコール性疾患、パンデミック		36757694	
<b>要 旨</b>			
<p><b>目的：</b> COVID-19 はアルコール性疾患をはじめとする多くの疾患に影響する。2020 年 1 月から 2022 年 1 月にかけての COVID-19 流行期に COVID-19 診断がアルコール性疾患の新規診断にどう関連したかを明らかにする。</p> <p><b>方法：</b> 2020 年 1 月から 2022 年 1 月の間に、12 歳以上の米国の患者における電子的健康データの後ろ視的コホート研究において、アルコール性疾患の新規診断を、COVID-19 患者と、それ以外の呼吸器感染症患者の間で比較した。アルコール性疾患の新規発症について、COVID-19 患者と、プレペンシティブスコアマッチングを行った対照群とでハザード比を算出した。発症後 14 日から 3 ヶ月後と、3－6 ヶ月に分けて算出した。</p> <p><b>結果：</b> COVID-19 患者約 120 万人と、それ以外の呼吸器感染症患者 160 万人を比較した。パンデミックの最初の 3 ヶ月においては、アルコール性疾患発症リスクが COVID-19 患者で有意に高かったが（ハザード比 2.53）、次の 3 ヶ月では有意な上昇はなかった。リスク上昇は 2021 年 7 月までは認められなかったが、それ以後は認めなかった。</p> <p><b>結論：</b> COVID-19 患者におけるアルコール性疾患発症リスク上昇は、ある時期において認められた。パンデミックを取り巻く環境や恐怖や心配が、アルコール性疾患発症と関連している可能性がある。</p>			